

東日本大震災 対策本部情報	13号	2011/03/17 17:00現在
------------------	-----	-----------------------

各地本委員長殿

証言・新地駅運転士

津波は架線位の高さまで襲ってきた！

翌朝まで跨線橋のうえで一晩を過ごした

「当日、新地駅に11分遅れで到着、発車前に大きな揺れを感じました。同時に緊急無線が流れました。同列車には警察官2名が乗車しており、すぐに何かあれば協力するという申し出を受けました。地震がおさまり、被害状況を確認するためにホームに降りました。ホームは亀裂が入り、トイレが傾いているのがわかりました。跨線橋を渡り、駅事務所に行ったのですが、誰もいませんでした。委託駅である駅事務室にはものが散乱していました。そのため、すぐに車輦にもどり、停電していたため、パンタグラフを下げバッテリーを切りました。警察官が無線で連絡を取り、乗客を新地役場に避難させると乗客全員を誘導し避難させました。車掌2名と私は車輦に残っていたのですが、男性車掌が海のほうを見ていると、家の中から波が押し寄せていました。「津波が来ている！」というので、私も海のほうを観ると、家々の間から波が向かってくるのがわかりましたので、3人で跨線橋に避難しました。

津波は、家や電柱をなぎ倒し、跨線橋下の架線くらいの高さまで襲ってきました。4両編成の車輦は流されていきました。その後、何度か小規模な波（ホームの高さくらい）が来ました。その後、運輸区の人からの携帯電話が通じて、跨線橋に避難している旨を伝えました。会社は救助要請をしましたが、新地駅まで来ることが出来ず、その日は3人で跨線橋で一晩を過ごし、翌朝、新地駅役場まで歩き、救助されました。当日はコートを持って行かなかったのが、寒かったです。状況は列車に搭載してある緊急グッズで入っていたラジオで分かりました。」

J R東労組 中央本部
以 上